

公益社団法人私立大学情報教育協会
2020 年度第 6 回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会、情報リテラシー・情報倫理分科会、分野別情報教育分科会

I. 日 時：令和 2 年 8 月 7 日（金） 17:00～19:00

II. 場 所：Zoom ネット会議室

III. 参加者：斎藤委員長、笈委員、牧野委員、大原トバ伊、玉田主査、和田委員、金子委員、中西委員、阿部委員、角田委員、石川委員、大久保委員、渡辺トバ伊、光井トバ伊、小野トバ伊
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

私情協 教育イノベーション大会の分科会 F で説明を行う項目、時間配分、意見交換概要などを確認した上で、前回の委員会で修正案が提示された項目について以下のような検討・意見交換を進めた。

1. 社会で求められる情報活用能力育成の背景について

- ・ 情報活用教育の必要性をストレートに説明しているが、プログラミングに関連する記述が誤解されることが指摘された。
- ・ 高校でプログラミングの基礎を学んできたことを前提としており、それ以上に長文のプログラムは学ぶ必要がないのではないか、情報教育はプログラミングだけではないという内容で説明してはどうか。また、文化価値を意識した教育について美術を例に説明しているが説明全体の割合からボリュームを減らすことにした。

2. 到達目標 C の AI 活用教育について

- ・ タイトルを、初年次向け AI 理解教育の反転授業シナリオ作りとして、到達目標 C に対応した授業モデル案で提案した 4 コマ分の授業シナリオを最初に提示してから、体験を通じた AI 活用教育の部分を重点的に説明することにした。

3. 専門科目と連携した授業設計・運用ガイドについて

- ・ 家政系分野で求められる情報活用能力の説明から始めて、被服学分野で繊維製品についての問題を、品質苦情の解決をテーマにした授業設計のコンテンツが提示された。
- ・ 授業の流れの中で、学びがどの到達点に対応しているかを記述してはどうか。
- ・ 授業構成の中で、企業などとネット上でディスカッションや意見交換ができる環境を取り入れてはどうか。

4. 意見交換の仕組みについて

- ・ 情報活用教育コンソーシアムとして、分科会 F で発表するビデオと資料を本協会 Web に掲載し、Google Classroom の掲示板機能を利用して意見交換の場を設定することを確認した。
- ・ 意見交流の運営をスムーズに進めるため、情報活用教育コンソーシアム運営小委員会として 3 名の教員を委嘱することにした。

V. 今後のスケジュール

9 月 4 日（金）に、教育イノベーション大会の分科会 F 「社会で求められる情報活用能力の育成に向けたモデル授業の実施・準備対策の考察」で研究内容の報告をすることになっている。